



パドックはなく、スタンド裏手で装鞍を済ませた馬が引かれるのを見るしかない。



入場料100バーツエリアにある食堂。おかずを選んでご飯に乗せてもらう。



ロイヤルバンコクスポーツクラブのスタンドからコースと内馬場を望む。内馬場はゴルフ場。

世界旅打ち氣分

●第5回・ロイヤルバンコクスポーツクラブ

須田鷹雄

写真のカラー版は
<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>の
#グリーンファーム会報#2018年5月号
でご覧いただけます

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

入場してみると、中は陰鬱といふか、暗くて古いコンクリのスタンド内に中高年男性ばかりが集つてゐる雰囲気に圧倒されるだろう。日本で言うなら昭和20～40年代の競輪場のような感じだ。ただそのぶん、ギャンブルに対するパッションは伝わってくる。

バノクスボツクラブにはメンバ専用の小スタンドもあるが、観光客は入れない。入場口の前には、競馬新聞を売る屋台がたくさん出ている。また、双眼鏡のレンタル屋台もたくさんある。日本でも昔はレンタル双眼鏡があつたが、ターフビジョンの登場で衰退→廃止となつた。ターフビジョンがないため、まだ双眼鏡の利用が一般的なのだ。

いま開催日について記したが、実際にはの通りに開催が行われない」とも多い。王室に不幸があつたり、仏教の祝日に当たつたりすると、開催が中止になつたりスライドしたりする。これを日本から把握するのは至難の業であり、旅打ちに行つても開催していないといふリスクがあるのだ。

これまで4回はいわゆる競馬先生の「これまで4回はいわゆる競馬先生が、今回もガラフとかわってタイの競馬場を御紹介しようと思う。タイには計6箇所の競馬場がある。首都バンコクにあるのがロイヤルバンコクスポーツクラブとロイヤルターフクラブで、基本的に互いに隔週日曜に開催を行っている。この2場は芝コースを有しており、いわば中央競馬的な位置付けである。その他に「ロード」と「エンマイ」では土曜日に、「コンケン」と「ウドンタニ」では日曜日に競馬が行われるが、これは地方競馬的な存在。日本のように所属馬が分かれているわけではないが、強い馬はバクトナに来て、弱い馬は他の4場に向かうのが一般的なようだ。

類も長年単複のみで、この10年ほどでやつと馬連や3連単などが導入されてきた。インターネット投票はおろか場外発売もなく、それゆえ経営難のわりに本場に人だけは多い。そのため本場の飲食は充実しており、これは旅打ちにおけるタイ競馬の強みだ。

ショットと思つ。
ロイヤルバノクスボーツクラブは
バンコクのど真ん中に立地してい
る。東京でいえば築地とか、そのレ
ベルの都心に相当する。バンク市
内にはBTSという鉄道が走つてい
るが、そのサイアム駅が最寄りと
なる。駅から線路沿いに伸びる通
路を東に向かい、最初に見える南
北方向の大通りが競馬場に向か
う道なので、そこで陸橋を下りる。
ここから競馬場の入り口までは
歩いていける距離だが、15分くら
いかかる。そこで陸橋を下りてくる
人々を待ち受けているのがバイク
タクシーだ。バイクタクシーは近距
離を2人乗りで運んでくれる交通
手段。値段は決まっていないが、そ
うひどくふっかけられることが多い
。タイ語のできない観光客は行
き先を告げられないためなかなか
利用する機会がないのだが、この
陸橋下から乗る場合、どう考えて
も行き先は競馬場なので、身振り

一方でタイはシンガポール・マレーシアと地続きである点が強みで、両国で通用しなくなつた競走馬が陸路でタイに輸入されてくる。そのため、タイの地方競馬ではたまに驚くような良血馬と出でますこともある（おそらくはシンガポールで走つていた馬だらう）。

さて、日本の競馬ファンが旅打ちでタイの競馬場に行くとしたら、まずはバンコクの2場が候補になるだろう。今回はバンコク初心者でも行きやすい、ロイヤルバンコククスボーツクラブのほうを御紹介

所のような役割だ。その代わりといつてはなんだが、本馬場入場後に全馬が決められた「ースを常歩で回り、観客に馬の様子を見せる。これがパドック代わりだ。

内馬場はゴルフ場になつてゐる。

単品系の食べ物を出す小屋台がたくさん出ている。最初に「スタンンド」(4階まである)を一巡し、なにを食べるか計画をたてて臨みたいところだ。幸いタイの食べ物はボリュームが小さめなので、色々と種類

スタンドの客層とは打ってかわらず、この「ゴルフ場は超高級会員制、しかもお金では会員になれない。日本人だと大使夫妻かその友人でないとプレーできない」というくらいのハイソサエティ用「ゴルフ場」だ。レース中でも平気でプレーを続けているが、スライスしたボールが走る馬のほうに飛んできたというような話は聞かないで大丈夫なのだろう。ちなみに「ゴルフ場とコースの間には細い水路がある」、「ロード」逸れてきたボールは「ここに落ちるようになつてある。

馬券を買う窓口ではタイ語しか通じないので、紙に賭式(単勝ならW、3連単ならTCEなど。)のアルファベットは通じる)と買い目の数字・金額を書いて渡す。発走時刻が近づいても焦る必要はない。タイの競馬は発走時刻になつてやつとみんなが馬券を買い始めるかどうかといふペース。締め切りや発走はそこから15～20分ほど遅れる。タイの競馬は堅い決着が多く、最終的にどれが人気になるのか馬券を見るためもある程度

競馬場ではぜひ食事をとつてほしい。タイの別な競馬場を御紹介するときにも触れるが、タイの競馬場はとにかくメシがうまい。一食がつり食べるなら、おかず数品を選んだ飯に乗つけてもらう定食屋がおすすめ。おかずはバツトに入れて陳列してあるので、言葉が分からなくて困らない。

さらに競馬場のあちこちには、

じっくり待つことが必要だ。
ちなみにその間出走馬はという
と、なんどゲートに入れられずつ
と待たされている。長いときには30
分待たされることがある。それに
慣れているので、タイにはゲートで
駐立の悪い馬というのではない。こ
ういった珍しい見聞ができるのも、
海外旅打ちの面白いところであ
る。